記者発表参考資料

平成２０年４月

胆沢ダム建設事業の概要

Ⅰ．事業のあゆみ

昭和４４年　４月	予備調査開始
昭和５８年　４月	実施計画調査開始（調査事務所設置）
昭和６３年　４月	建設事業着手（工事事務所設置、新石淵ダムを胆沢ダムに名称変更）
平成　２年　５月	胆沢ダムの建設に関する基本計画告示
平成　４年　２月	一般補償基準妥結調印
平成　５年　２月	下流迂回路工事着手
平成１１年　２月	転流工工事着手
平成１２年　６月	胆沢ダムの建設に関する基本計画（変更）告示
平成１５年　１月	本体工事着手（基礎掘削工事、原石山準備工事等）
平成１５年　５月	付替国道第一次供用区間、上・下流迂回路供用開始
平成１６年１０月	堤体盛立（第１期）工事着手
平成１７年１０月	堤体盛立着工
平成１８年　３月	洪水吐き打設（第１期）工事着手
平成１８年１０月	定礎

Ⅱ．胆沢ダムの目的

①洪水被害の軽減（洪水調節を行い、北上川流域の洪水被害を軽減）
②かんがい用水の供給（胆沢平野の約１万ｈａの農地にかんがい用水を補給）
③水道用水の確保（奥州市、金ヶ崎町に住む１５万人に日最大４万6,800㎥の水道用水を供給）
④発電（ダム下流の発電所で最大出力１万9,200ｋｗの水力発電）
⑤河川環境の保全（河川の安定した流れを確保）

Ⅲ．ダムおよび貯水池諸元

型　　式：中央コア型ロックフィルダム
堤頂標高：EL. 364m
堤　　高：132m
堤 頂 長：723m
堤 体 積：約1,350万m^3
計画高水流量：2,100m^3/秒
計 画 放 流 量：270m^3/秒（最大350m^3/秒）
洪水調節方式：自然調節方式
総 貯 水 容 量：１億4,300万m^3

Ⅳ．事業概要

１．本体工事
基 礎 掘 削：約　270万m^3
堤 体 盛 立：約 1,350万m^3
洪水吐きｺﾝｸﾘｰﾄ：約　22万m^3

２．付替道路
①国　　道　延長＝7.3㎞、改良部幅員＝11.0m（内歩道2.5m）
②迂 回 路　延長＝2.5㎞（上流迂回路1.5㎞、下流迂回路1.0㎞）
③市 道 付 替　延長＝5.1㎞
④林 道 付 替　延長＝８.２㎞

３．用地補償
移転家屋　７９戸（完了）

Ⅴ．事業執行額

平成１９年度末迄：１,３３３億円（５４．６%）、総事業費：2,440億円

胆沢ダムダムサイト全景

平成20年3月27日撮影

